

社会資本総合整備計画
都市再生整備計画 事後評価シート
宇都宮大学周辺地区

平成31年 3月

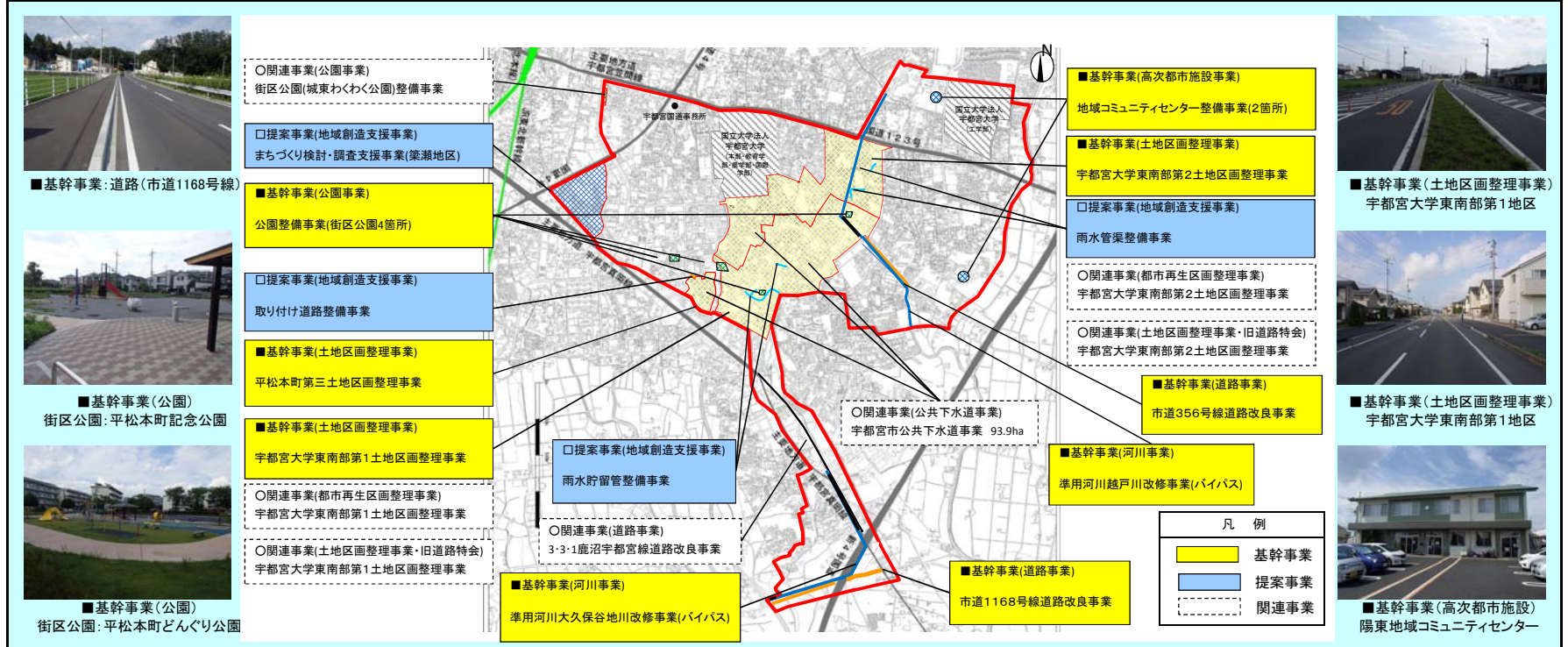
栃木県宇都宮市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 栃木県 | 市町村名 | 宇都宮市 | 地区名 | 宇都宮大学周辺地区 | | | 面積 | 460ha | | | |
|--------------------------------------|--|---|---|--------|-------------------------------|--|--|---------------------------|------------|------------------------------|---|--|
| 交付期間 | 平成25年度～平成29年度 | | 事後評価実施時期 | 平成30年度 | | 交付対象事業費 | 5933,5百万円 | 国費率 | 0,400 | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 【道路】市道1168号線、市道356号線 【公園】街区公園(4箇所) 【河川】準用河川越戸川バイパス、準用河川大久保谷地川バイパス 【土地区画整理事業】宇都宮大学東南部第1地区、宇都宮大学東南部第2地区、平松本町第三地区 | | | | | | | | | |
| | 提案事業 | | 【地域創造支援事業】雨水貯留管整備事業、雨水管渠整備事業、取り付け道路整備事業、まちづくり検討・調査支援事業築瀬地区 | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 基幹事業 | | 【公園】近隣公園 | | | 事業の進捗状況等を踏まえた見直しにより削除 | | 指標1・2に関連するが、指標及び数値目標は据え置く | | |
| | 新たに追加した事業 | | 提案事業 | | 【地域創造支援事業】まちづくり検討・調査支援事業宇大西地区 | | | 事業の進捗状況等を踏まえた見直しにより削除 | | | | |
| | 提案事業 | | 基幹事業 | | 【高次都市施設】地域コミュニティセンター(2箇所) | | | 活発な地域まちづくり活動を促進するために事業を追加 | | まちづくりの目標に地域のまちづくり活動に関する表記を追加 | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成25年度～平成29年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | - | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | 指標1 | 地区内人口の増加 | 人 | 6,100 | H24 | 6,300 | H29 | 6,042 | △ | あり なし ● | 宇都宮大学東南部第2地区において、土地区画整理事業の進捗により、建物の除却が進んでいるため、人口が減少している。しかし、宇都宮大学東南部第1地区だけみると、住宅棟数が増加し、人口が増加している。 | |
| | 指標2 | 狭隘道路率 | % | 41.33 | H24 | 28.67 | H29 | 28.44 | ○ | あり なし | 土地区画整理事業により地区内の狭隘道路の解消が進んだ。 | |
| | 指標3 | 浸水想定面積 | ha | 27.92 | H24 | 26.06 | H29 | 26.06 | ○ | あり なし | 準用河川越戸川及び準用河川大久保谷地川バイパスの河川改修整備により、着実に浸水想定面積を減少することができた。 | |
| | 指標4 | 地域コミュニティセンター利用回数 | 回/年 | 4,500 | H25 | 4,800 | H29 | 4,872 | ○ | あり なし | 石井地域コミュニティセンター及び隣東地域コミュニティセンターが整備されたことにより、地域まちづくり活動の拠点施設として機能の向上や活動の幅が広がった結果、地域コミュニティセンター利用回数が増加している。 | |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標による効果発現状況) | その他の数値指標1 | 宇都宮大学東南部第1地区内人口 | 人 | 2,900 | H24 | / | | 3,114 | / | / | 宇都宮大学東南部第1地区は、事業進捗率が95%となり、土地区画整理事業によって道路や公園等が整備され、利便性や安全性の高い、良好な居住環境が形成されたことから、人口が増加している。 | |
| | その他の数値指標2 | | | | | / | | / | / | / | | |
| 4)定性的な効果発現状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業の進捗により、住宅等の建替が進み、地区内の老朽建築物が減少するなど、防災性が向上するとともに、良好な街並みが形成されつつある。 ・地域住民のニーズに応えた公園整備や地域コミュニティセンターの機能向上により、地域住民の交流の機会が増加し、公園愛護の意識が高まり、防犯活動等の地域まちづくり活動が活性化している。 | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | 実施内容 | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | | |
| | モニタリング | なし | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | - | | | | | |
| | 住民参加プロセス | <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会と共に公園設置に向けたワークショップの開催 ・地域における防犯上の問題個所などの点検活動 | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ参加者の方々に、自分達が利用する公園に対する愛着を高めるとともに維持管理に積極的に参加する意識を育んでいく。 ・「安全で安心して暮らせる地域づくり」と「青少年の非行防止と健全育成」を図るため、継続的に活動していく。 | | | | | |
| 持続的なまちづくり体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園愛護会設置に向けた働きかけ | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会など既存の組織を通して、公園愛護会設置に向けた取組を行っていく。 | | | | | | |

様式2-2 地区の概要

| 宇都宮大学周辺地区(栃木県宇都宮市) 都市再生整備計画事業の成果概要 | | | | | | | | |
|---|------------------|-----------------|-------|------|-------|-------|-------|-----|
| まちづくりの目標 | | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 |
| 大目標:安全性・利便性の高い良好な住環境を有する生活拠点の形成 目標1:良好で質の高い住環境づくり 目標2:安全性・防災性を備えた市街地の形成 目標3:市街化の進行による都市型浸水対策の推進 目標4:地域コミュニティの強化及び住民間交流・まちづくり活動の推進 | 地区内人口の増加 | 単位:人 | 6,100 | H24 | 6,300 | H29 | 6,042 | H29 |
| | 狭隘道路率 | 単位:% | 41.33 | H24 | 28.67 | H29 | 28.44 | H29 |
| | 浸水想定面積 | 単位:ha | 27.92 | H24 | 26.06 | H29 | 26.06 | H29 |
| | 地域コミュニティセンター利用回数 | 単位:回/年 | 4,500 | H25 | 4,800 | H29 | 4,872 | H29 |
| | | その他の数値指標1 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 |
| | | 宇都宮大学東南部第1地区内人口 | | 単位:人 | | 2,900 | | H24 |



まちの課題の変化

・土地区画整理事業により、宇都宮大学東南部第1地区においては、都市計画道路などの幹線道路や区画道路が整備されたことから、円滑な緊急車両の通行が確保されるとともに、狭隘道路の解消がされるなど、防災性の向上が図られ、良好で安全・安心な住環境が形成された。また、公園の整備により、地域住民の憩いの場、コミュニティの場としてのスペースが確保された。一方で、宇都宮大学東南部第2地区では、建物が密集しており、狭隘道路も多く存在していることから、引き続き、道路や公園等の基盤施設の整備などの事業推進が必要である。また、土地区画整理事業の長期未着手地区において、地域住民とともに地域の実情に合わせたまちづくり手法を検討していく必要がある。

・河川改修整備や雨水貯留管及び雨水管渠整備について、土地区画整理事業等と連携を図りながら、浸水想定面積を縮小させるなど、都市型水害被害の危険が解消されるよう、計画的に整備を進めていく必要がある。

・地域まちづくり活動の拠点となる石井地域コミュニティセンター及び陽東地域コミュニティセンターの整備により、施設の機能は向上し、活動の幅も広がっているが、今後はまちづくり活動に対するサポートや担い手を充実させていく必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【安全・安心で魅力的な住環境の形成】

- 宇都宮大学東南部地区においては、土地区画整理事業により道路、公園等の基盤施設の整備を推進することで、引き続き、円滑な緊急車両の通行の確保や狭隘道路の解消など、地域の防災性の向上を図り、安全・安心で魅力的な住環境の形成を図る。

【土地区画整理事業長期未着手地区のまちづくりのあり方の検討】

- 宇都宮大学西地区や築瀬地区等の長期未着手地区において、今後、柔らかな区画整理など様々な手法を用いたまちづくりのあり方について検討を進める。

【都市型水害対策の継続的な推進】

- 宇都宮大学周辺地区において、いまだに浸水被害が解消しない区域が残っていることから、今後も継続して整備を進め、宇都宮大学周辺地区内外の浸水被害の早期解消を図る。

【地域住民主体のまちづくり活動の支援】

- 地域のまちづくり活動が更に活発化するよう、地域まちづくり組織等のまちづくり団体と連携・調整を図りながら、地域住民が主体となったまちづくり活動に対して、活動に対するサポートや担い手の育成など、様々な形で支援を行う。